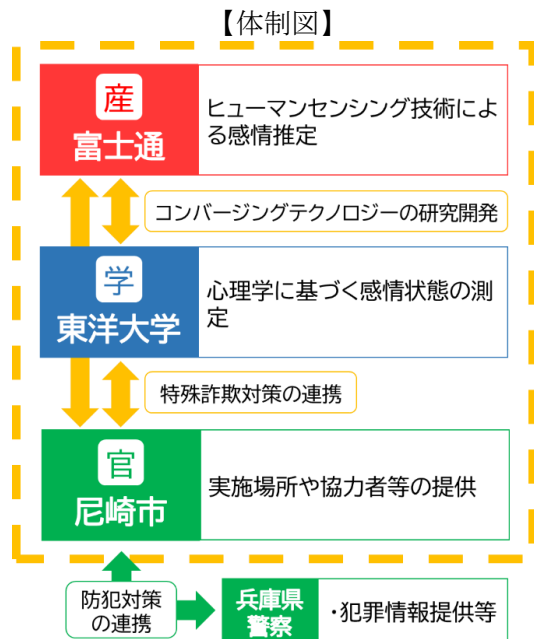


令和4年3月24日	
所 属	生活安全課
所属長	木下 禎章
電 話	06-6489-6502

日本初！AI×犯罪心理学で特殊詐欺対策 ～学校法人東洋大学、富士通株式会社との共同研究開始～

尼崎市、学校法人東洋大学（注1）（以下、「東洋大学」という）、富士通株式会社（注2）（以下、「富士通」という）は、複雑化かつ巧妙化する特殊詐欺の撲滅に向けて、AIと犯罪心理学を組み合わせたコンバージングテクノロジー（注3）を活用し、被害者の判断力が低下していないかなどの心理状態を推定しリスクを可視化することで特殊詐欺を未然に防止する日本初の共同研究を、市内在住の65歳以上の高齢者を対象に令和4年3月30日より1年間実施します。

今回、三者が連携する共同研究の1回目となる実証実験を、以下のとおり行います。



1 実証実験

(1) 実施内容

特殊詐欺を高精度に検知するAIモデルの開発を目指す1回目の実験として、対象者が詐欺電話を体験するなかで、犯行に使用されるワードに、どのような反応を示すのかを捉えるとともに、反応時の心理状態を把握する実験を行います。

具体的には、兵庫県警察協力のもと、特殊詐欺特有のキーワードを盛り込んだリアリティある特殊詐欺シナリオを使用し、事前に録音した特殊詐欺グループを装った音声を、対象者に聞いていただきます。

その際、カメラ映像から人の行動や表情、脈拍を推定するAI技術を活用し、対象者の顔の表情や脈拍などのデータをカメラやセンサーで捉えます。

また、体験後に犯罪心理学の観点などを盛り込んだ事後アンケートを行い、一連の体験のなかで対象者がどのような心理状態であったかを把握します。

【共同研究のイメージ】



(2) 日時

- 1日目：3月30日（水） 午後2時～
- 2日目： 同31日（木） 午前9時～午後7時

- (3) 場所
 尼崎市役所 中館8階 フロア内会議室 全4室（メイン会場：8-2会議室）
- (4) 参加団体
 学校法人東洋大学
 富士通株式会社
 尼崎市
- (5) 三者の役割
 東洋大学：実証シナリオの作成、心理学に基づく分析、データ収集、特殊詐欺推定 AI モデルの設計
 富士通：実証シナリオの作成、実証方法の検討と実施、データ収集、特殊詐欺推定 AI モデルの設計と開発
 尼崎市：実証に係る協力者等の調整、実施場所等環境の提供

2 今後のスケジュール

今回の1回目の実験で収集したデータを分析したのち、2回目の実験を令和4年度上半期に行う予定です。

3 実証実験の取材対応

1日目の30日（水）の午後2時30分以降に、尼崎市本庁舎中館8階危機管理安全局長室にて、尼崎市危機管理安全局長 梶本及び東洋大学 桐生教授、富士通 紺野プロジェクトマネージャーによる取材対応をさせていただきます。

（注1）学校法人東洋大学：所在地 東京都文京区 理事長 安齋 隆

本研究では、社会学部長である桐生正幸教授のもと、東洋大学が開発した心理尺度を用いた感情状態の測定を行います。



東洋大学
桐生教授

桐生教授は、科学捜査研究所で犯罪心理に関する検査や分析を行っていた経歴を持ち、現在東洋大学社会学部長を担うなか、社会心理学の教授として、統計手法を用いた犯罪心理学に関する研究を行っています。また、日本犯罪心理学会常任理事や日本カスタマーハラスメント対応協会理事を務められています。

（注2）富士通株式会社：本社 東京都港区 代表取締役社長 時田 隆仁

本研究では、富士通株式会社の研究本部である先端融合技術研究所（神奈川県川崎市）によって、ヒューマンセンシング技術に基づく感情推定を行います。



富士通（株）
研究本部
先端融合
技術研究所

本研究所では、富士通が長年培ってきた自然科学の知見をベースに、人と社会にフォーカスして異分野融合を進めており、そのアプローチテーマの一つ「ヒューマンセンシング」では、「人」を「理解・予測」することにフォーカスし、人の振る舞いから、その人と周囲の人、モノ、環境との関係を理解しようと試みます。

（注3）コンバージングテクノロジー：特定の目的を達成するために2つ以上の異なる分野の科学や技術を融合した技術のこと。 (以 上)